

令和4年度の学校評価
ア 自己評価結果等

<p>前年度の重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。 2 学校いじめ防止基本方針に基づき、すべてのいじめの根絶を図るとともに、情報モラルを向上させる。 3 適切な情報提供を行い、確かな進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。 4 外部との連携を充実させ、学校全体でのE S D活動を推進する。 5 「教員の多忙化解消プラン」に基づき、業務改善に向けた学校マネジメントの推進を図る。 6 保護者・地域に対して、積極的に本校の取組を発信する。 7 コロナ禍において安全・安心な学校運営を心掛ける。 8 一人一台タブレットの積極的な活用を効果的に実施する。 		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>生徒指導 (生徒指導課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己指導能力の育成。各分掌や学年との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導では、制服の在り方を検討し、自分で考え、自分で正すための声掛けを実施する。 ・情報モラルの向上を目指し、「防犯教室」やHR指導、風紀委員活動などを通じて身近なテーマとして考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導の際に、事前に風紀委員を通じてポイントを伝達することで、自身の身だしなみの在り方を考えさせる機会を作ることができた。身だしなみに対する意識のばらつきが見られるため、今一度、オフィスや試験を意識した身だしなみの方向性を伝達したい。 ・防犯教室では生徒が主体となり、体験を通じて全校生徒に様々な危険性や対処法を伝えることができた。引き続き生徒が主体とされる場面設定をしていきたい。
<p>(2年学年会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の向上を図り、豊かな人間性を育む。 ・リーダーシップの育成と学年全体の団結を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学、HR、学年集会を通して、相手を思いやる心、自分の考えを伝える力を高める。 ・学校行事を通してリーダーシップと責任感を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関しては、ホームルームの時間に進路に関する課題に取り組んだり、進路行事に参加したりすることで、自己を見つめながら将来の進路を考えるようになった。 ・行事や学年集会を通して、状況見ながらリーダーシップを取ることができた生徒が少しずつ増えてきた。今後、延期された修学旅行に向けて、さらに学年としてのまとまりを高めていきたい。
<p>(1年学年会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立と検定取得への意欲的な取り組み。 ・部活動と学業との両立。 ・生徒指導課と連携し、遅刻・身だしなみ指導の徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を単位として行動する機会が少なかったため、集団としての行動やリーダーシップを育成する機会を取り入れる。 ・学校の中核を担う学年として、自ら進んで行動できるように働きかけたい。
<p>学習指導 (教務課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを意識した授業展開の充実 ・授業改善、授業規律の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善、授業規律の確立を軸に、学習指導の振り返りを行うため、生徒に対して授業評価アンケートを実施し、学習効果の向上を目指す。 ・全職員及び全生徒のICT機器を活用した授業スタイルの変革を進める。 ・ユネスコスクールとして、SDGsに関連する内容を授業に取り入れる。 ・教科主任会と連携し、アクティブ・ラーニング等の展開事例を共有し、効果的な実践方法を検討する。 ・公開授業週間においては、教科や担当科目の枠を越えて、期間中1回は授業を参観し合い、多様な指導方法に触れる機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースメソッドを中心とした課題解決学習を積極的に取り入れていけるよう、教科主任会等で依頼をすることで、多くの教科で主体的・対話的で深い学びに繋がる取組とすることができた。また、各学期の公開授業週間においては、同一テーマを決めて取り組んだことにより、各教科において、教科横断的な授業展開を意識した取組とすることができた。 ・今年度も一部のクラスでオンライン授業を実施できたこともあり、ICT機器を活用した授業スタイルの変革を進めることができた。 ・次年度も、継続してICT機器を活用した授業スタイルの変革、SDGsに関連した内容を意識しながら、全ての教科・科目で主体的対話的で深い学びを意識した授業展開の充実をはかっていきたい。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導 (経 理 科)	<ul style="list-style-type: none"> 対話的で深い学びの視点による経理教育の充実と授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して効果的な授業展開を心掛けるとともに、学習内容の個々の意味を深く考え、説明する力を身に付けるよう授業改善を図る。 意欲的に粘り強く学習に向かう力を養い、ビジネスの視点から広い視野で会計思考力を身に付けられるよう授業展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用することにより基礎・基本を重視してわかりやすく説明し、理論的に理解させることに重点を置き、自ら学ぶ姿勢と意欲の向上を図った。 学んでいる知識が実際のビジネス活動にどれだけ役に立っているか、考えて処理することの大切さを学ばせることができた。 会計の知識だけではなくビジネスの視点で考へ、広い視野で会計情報から経営戦略を考えさせることができた。
(事 務 科)	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス教育の充実 外部講師による授業や校外学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域協働ビジネス実践」においてSociety5.0やSDGs、DXなどの視点からビジネス教育を展開し、企業の社会的責任を果たす態度と未来ビジネスを創造できる人材を育成する。 外部講師講演や校外学習を通じて生きたビジネスに触れる機会を積極的に増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスに関する学習ではSDGsやDXを基礎とし、株式に関する学習、未来ビジネスの研究発表を実施した。最終的には地域ビジネスについて考察し、地域企業の理解を図った。グループでの発表や探究学習、ケースメソッドを重点的に実施し、多面的・多角的な視野で意思決定を行う能力を身に付けることができた。 オフィスマナー研修や着付け教室、メッセナゴヤへの校外学習を通じて実践的・体験的にビジネスを学ぶことができた。
(情報処理科)	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムを先行実施し、課題と対応策を検討する。 外部講師による授業や講習会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 小学科会を活用し、新カリキュラムの先行実施について課題を見つけ出し、その対応策を検討する。 外部講師による授業や講演会を積極的に取り入れ、より実践的で専門的な知識を得る機会を増やし、キャリアデザインに役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の実施に向け、アクティブ・ラーニングの評価について3観点による評価を先行実施することができた。 プログラミングレゴやドローンを活用し、新カリキュラムに繋がるDX人材の育成を意識した授業を実施した。
(国際ビジ初科)	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目「地域協働ビジネス実践」の実施、改善 企業と連携し、コミュニケーション能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目を実施、改善し、担当教員と情報共有する。 企業と連携を取り、コミュニケーション能力向上に向けた実践的な取り組みを検討する。 プレゼンテーションを数多く実施し、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において担当者間で情報共有を密にすることができた。 課題研究や商品開発等の授業を通じて、企業との連携を実施することができた。 地域協働ビジネス実践の授業内でプレゼンテーションを数回を実施することができたが、来年度は更にプレゼンテーション機会を増やしていきたい。
(図 書 課)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の利用促進と環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のみならず職員に対しても図書館の利用を積極的に働きかけるとともに、魅力ある図書館づくりを心がける。 古い資料等の整理を行い、環境の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習利用等の来館者は減少したが、貸出冊数は、1割以上増加した。 古い資料を処分したり、ファイルに整理したりして、図書館及び資料室の環境整備を行った。
進路指導 (進路指導課)	<ul style="list-style-type: none"> 変化する社会に対して生徒が柔軟に対応できるようにするために、確かな進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 最新の企業・学校の情報を提供し、生徒自身が納得する進路選択へと導く。 生徒が自己の特性等と将来の進路との関わりから「夢のマッチングフェア」、「卒業生による企業説明会」、「社会人講話」及び「受験報告書」等を活用する。 民間就職斡旋業者の活用を検討する。 充実した高校生活を送ることの延長として、総合型入試の活用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の求人票をMicrosoft Teams を利用し、PDF ファイルで閲覧できるようにして、家庭で検討できるようにした。 「夢のマッチングフェア」は新型コロナウイルス感染症対策を徹底して自由参加で開催した。「卒業生による企業説明会」は規模を昨年度並みの規模で開催予定。 民間就職斡旋業者が紹介する求人が、本校生徒の希望とマッチしないため、採用しないこととした。 生徒の希望を叶えるため、総合型入試の活用を勧めた結果、希望の大学に合格することができた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
(3年学年会)	<ul style="list-style-type: none"> 自己実現のために幅広い選択肢を考え、自身の能力と適正の自己理解をふまえた上で柔軟に対応できる態度の育成を図る。進路決定を自分で決定したと自覚し、充実した高校生活を送らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学やHR、または進路講話を活用して、多角的視点を持って自分に合った進路選択ができるよう指導する。人生の中で最高の充実感を味わうために、学校行事などに積極的に取り組むよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年全体として、個々に合った進路実現が十分にできた。教育活動が制限される中、修学旅行で新たな取り組みができたので教育活動の成果としては満足いくものだった。 最上級生として他学年をリードする機会を充実させる。下級生の模範となるような姿勢を見せることで、人間性を高めさせたい。
生徒会活動(生徒会課)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部が取り組む新しい試みを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から始まったキッチンカー招へいをはじめ、スクールランチ等の取り組みを軌道に乗せるために、問題点や改善点を執行部に示して、より良い方向に導く。 	<ul style="list-style-type: none"> キッチンカー招へい、スクールランチ、スクールグリコについて、年間を通して軌道に乗せることができた。 担当してきた議員への負担、教員の負担を軽減するために、役割を分担していく必要がある。
教育相談(保健課)	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー来校日を活用する。 関係の職員と情報の共有を図りながら適切な対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱える生徒について、スクールカウンセラーに繋げることはできた。また、関係の職員間で情報の共有を効率的に的確に図ることができた。しかし、生徒が十分なカウンセリングを受けることなく進路変更に至ったケースもあった。各学年との情報共有を充実させ早期に問題を抱える生徒を把握したい。
P T A 行事(総務課)	<ul style="list-style-type: none"> 新しい時代に対応したP T A行事の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 社会状況を鑑みながら行事の内容を検討し充実させる。 行事の内容や意義を教職員に周知し、理解や協力を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年ぶりに対面でのP T A研修会を年2回実施し、会員同士の交流を深めることができた。また、スクールランチ試食会では、本校の取組を保護者に知っていただくことができた。今後、本校生徒開発商品の販売や試食なども取り入れていきたい。
情報管理(教育情報課)	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信技術(ICT)の活用に関する環境整備及び情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 教室棟でタブレット端末が利用できる環境整備を行う。 職員会議を通じ、ICT活用に関する情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> HR教室でタブレット端末が利用できる環境を整え、学習活動に貢献できた。 現職教育をあまり実施することができなかったため、次年度は積極的に行っていく。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 「県立高等学校再編将来構想」に基づき、様々な取組を継続して行うことができた。「商業教育のリニューアル」を念頭に置き、各分掌・学年・教科など、変革の時期にふさわしい取組ができた。次年度以降は、さらに組織を活性化させることを推進していきたい。 		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がいきいきと楽しく活動できる学校づくりができたか 教職員がやりがいを持てる学校づくりができたか 保護者・地域に対して開かれた学校づくりができたか
自己評価結果について(中間評価より)	<ul style="list-style-type: none"> 学校は安心して失敗できる場所であり、中学生体験入学会や学校説明会などでアピールしていくことが生徒募集につながっていくと考えている。 スクールカウンセリングにかかる生徒や心の不調から進路変更をする生徒が増加した。教職員が組織的に生徒支援をしていく必要がある。 ビジネスの視点に基づいた新しい取り組みを、全職員で協力的にかつ前向きに取り組むことができた。生徒の満足度はかなり向上した。これらの情報発信を行い、商業高校の良さをPRしていきたい。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> 新しい取り組みをブラッシュアップしながら継続していく。 コンソーシアムの団体と連携した取り組みを積極的に展開することで、より主体的で協働的な深い学びの実現を図りたい。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> 今年度達成できたことは多かったのではないかと。数年前と比べると驚くような発展をしている。今後も地域に開かれた学校を期待している。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	構成：保護者、地域連携・中高大連携・地域企業の関係者 評価時期：7月、9月、3月